



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

畜産業における経済的統合に関する研究 -
韓・日比較分析 -

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-02-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 李, 喆熙 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/2359

氏 名（国籍）	李 喆 熙（大韓民国）
学 位 の 種 類	博士（農学）
学 位 記 番 号	農博甲第18号
学 位 授 与 年 月 日	平成6年9月14日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第4条第1項該当
研究科及び専攻	連合農学研究科 生物資源科学専攻
研究指導を受けた大学	岐阜大学
学 位 論 文 題 目	畜産業における経済的統合に関する研究 －韓・日比較分析－
審 査 委 員	主査 岐 阜 大 学 教 授 杉 山 道 雄 副査 岐 阜 大 学 教 授 小 栗 克 之 副査 信 州 大 学 教 授 桂 瑛 一 副査 信 州 大 学 教 授 野 口 俊 邦 副査 静 岡 大 学 教 授 小 嶋 睦 雄

論 文 の 内 容 の 要 旨

農産物の国際化に際し、韓国畜産業の国際競争力強化のために、畜産業における生産・流通システムの改善が要望されている。そのため、本研究は日本やアメリカで導入され著しく発展している畜産インテグレーションシステムの導入の経済的効果と導入上の問題点を多角的、畜種別に明らかにすることを目的とした。

インテグレーションの概念を“農産物の生産・流通における二段階以上の所有又は意志決定の斉合”として、欧米や日本でのインテグレーションを先発型インテグレーションとして、最近10年間に発生しているタイや韓国でのそれを後発型インテグレーションとして、その両者を対比し、その性格を明らかにした。その大要は以下のとおりである。

先発型インテグレーションは国家政策とは直接関係なく、当該部門の労働過程の分化など生産力の発展に基づき、経営体の分化を重ねたのち統合した。そのことが様々な利益を生み出すものであり、生産・流通両過程を統合する

拠点として出荷施設(Shipping Station)を統合した統合体を生み出した。そして、その統合体は産地処理施設を拠点として、都市近郊から遠隔地へと分散化(Decentralization)をもたらしている。そして、その流通拠点をベースとして様々な契約形態を生ずる。契約飼育、委託飼育さらに直営生産でありついに生産と流通加工施設が直結した生産加工連結鶏舎(Inline System)が生まれるまでに至っている。

このことは様々な内部流通費を節約するばかりでなく、価格を安定させ、生産者所得を保障し、低コスト化を計るものとして国際競争力をつけてきた。

こうした先進国での先発型インテグレーションと対比して、後発型インテグレーションにはどのようなことが求められ、またどのような特徴があるか、第1に分散した小生産で後発型が国際競争力あるものとして急激に構造変革を行う必要がある。第2にそのため先進国の経験から生産と流通を大規模化し統合させる必要がある。

しかし、現状では流通拠点がなく、都市近郊集中型であり、生体流通が多く非効率で卸売商人資本の活動が大きい。その点流通の合理化が求められる。第3に急速インテグレーションを推し進めるため、国家政策(国家指導型)に依存している。したがって国は融資するだけでなく、直接統合体へも介入する。他方他のアジア諸国では、合併型(外国資本介入型)のインテグレーションもある。

本論文は韓国畜産を条件の相似した日本と対比することにより畜産の中でも、特にインテグレーション化の進んでいるブロイラー、採卵及び牛乳の場合をとりあげそれぞれ実証的に分析し、韓国におけるインテグレーションの方向や課題及びその効果を明らかにした。その経済的効果は①生産量の低減効果、②生産資材価格(素雛・飼料など)の安定化、③生産物販売価格の安定化、④経済所得の安定化、⑤立地配置の適正化、⑥処理・加工の統合、⑦流通の短絡化と経費低減などの顕著な効果があらわれる。

以上の効果をあげるために後発型インテグレーションの国家指導的構造、そのインテグレーション化に当たっての流通施設の役割、それを拠点とした生産と流通経営の結合の効果をブロイラー、採卵及び牛乳の三部門を事例として明らかにした。

審 査 結 果 の 要 旨

本論文は、ウルグアイランド締結後の韓国畜産の構造改革の一方向として畜産業の経済的統合のあり方が模索されている中で、条件の類似した日本と対比しながら韓国における経済的統合のあり方、特にインテグレーションの方向を理論的・実証的に明らかにしたものである。究明した点は次の二点に大別される。一つは、韓国にみられる後発型インテグレーションの特徴を明らかにしたこと、他の一つはインテグレーションの効果を明らかにしたことである。

インテグレーションの概念については“農産物の生産流通における二段階以上の所有又は意志決定の斉合”というデービスの定義に準拠している。欧米でのインテグレーションは主として1940年代に発生し、日本においても1960代後半からみられる。これら为先発型インテグレーションと規定し、最近10年間に発生しているタイや韓国でのそれを後発型インテグレーションとして、両者を対比し、その性格を明らかにしている。その大要は以下のように要約される。

先発型インテグレーションは国家政策とは直接関係なく、当該部門の労働過程の分化など生産力の発展に基づき、経営体の分化を重ねたのち統合した。そのことが様々な利益を生み出すものであり、生産・流通両過程を統合する拠点として出荷施設(Shipping Station)を統合した統合体を生み出した。そして、その統合体は産地処理施設を拠点として、都市近郊から遠隔地へと分散化(Decentralization)をもたらしている。そして、その流通拠点をベースとして様々な契約形態を生ずる。契約飼育、委託飼育さらに直営生産でありついに生産と流通加工施設が直結した生産加工連結鶏舎(Inline System)が生まれるまでに至っている。

このことは様々な内部流通費を節約するばかりでなく、価格を安定させ、生産者所得を保障し、低コスト化を計るものとして国際競争力をつけてきた。

こうした先進国での先発型インテグレーションと対比して、後発型インテグレーションにはどのようなことが求められ、またどのような特徴があるか、第1に分散した小生産で後発型が国際競争力あるものとして急激に構造変革

を行う必要がある。第2にそのため先進国の経験から生産と流通を大規模化し統合させる必要がある。

しかし、現状では流通拠点がなく、都市近郊集中型であり、生体流通が多く非効率で卸売商人資本の活動が大きい。その点流通の合理化が求められる。第3に急速インテグレーションを推し進めるため、国家政策(国家指導型)に依存している。したがって国は融資するだけでなく、直接統合体へも介入する。他方他のアジア諸国では、合併型(外国資本介入型)のインテグレーションもある。

本論文は韓国畜産を条件の相似した日本と対比することにより畜産の中でも、特にインテグレーション化の進んでいるブロイラー、採卵及び牛乳の場合をとりあげそれぞれ実証的に分析し、韓国におけるインテグレーションの方向や課題及びその効果を明らかにしている。またそれぞれの研究結果を学会誌等の7編、著者に3編を発表したいる。

以上の理論的、実証的検討を着実に進めてきた。このことにより後発型インテグレーションの国家指導的構造、そのインテグレーション化に当たっての流通施設の役割、それを拠点とした生産と流通経営の結合の効果をブロイラー、採卵及び牛乳の三部門を事例として明らかにしたことは評価されてよいと考える。